



『栄花物語』の御産(二〇〇九年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-24 キーワード: 作成者: 曳田, 詩織 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007354

『栄花物語』の御産

古典文学研究室 六四八八 曳田 詩織

本研究では、『栄花物語』における御産の記事の特徴を探るため、御産の記事を巻、記事、人物ごとに見て、『栄花物語』が影響を受けたとされる『枕草子』『源氏物語』『紫式部日記』と比較した。

巻十五から巻二十の間には御産に関わる記事がなく、空白部分があり、この前後で描かれる人物の傾向が変化している。

道長賛美の傾向は御産の記事においても見ることができた。道長のライバルの中関白家の御産の記事では、負の印象を持つ表現を使用し、中関白家を低めて描いている。また、道長家の中でも栄華に大きく影響した人物の御産は記述が多い。

しかし、例外的な描写も見られた。後一条・後朱雀天皇が産まれたときの御産については記述が多いのに対して、彼らが父となった際の御産の記事は少ない。道長の栄華に関わるのは彼らの出生と即位であるため、即位後は描写が見られなくなるのだろう。また御産の記事からは、道長女の嬉子は『源氏物語』における端役の軒端の萩や中の君をふまえて描かれたといえる。編者は嬉子に軽率な印象を持たせようとしたらしい。

以上、御産の記事にも道長賛美の傾向があることを確認し、記事どうしの新たな関連性を見出した。しかし、主題である道長賛美の傾向について例外的な描写も見られたため、御産の記事では必ずしも「主題」を貫いているとはいえないのである。